リーガルテックセミナー開催のご報告

男女共同参画推進本部 委員　柄澤 愛子（65 期）

当会弁護士業務改革委員会と男女共同参画推進本部は、2026年3月2日（月）11時30分から13時まで、共催セミナー「AIとリーガルの未来：弁護士業務を変えるテクノロジー活用の最前線」をオンライン形式で開催した。

生成AIの急速な普及によってリーガルテックが弁護士業務にどのような変化をもたらしているのか、また今後弁護士がどのような役割を担っていくべきかをテーマに、基調講演とパネルディスカッションの二部構成で実施され、多くの会員が参加した。

1　基調講演「リーガルテックの現状」

基調講演の講師を務めたのは、桃尾・松尾・難波法律事務所パートナー弁護士の松尾剛行弁護士（第一東京弁護士会）である。松尾弁護士は「リーガルテックの現状」と題し、法務業務に関するリーガルテックサービスの現状から、そこに伴う法的課題、そしてこれからの弁護士の在り方まで、幅広い観点から講演を行った。

生成AIの登場によってリーガルテックを取り巻く環境は急速に変化しており、契約書レビューやリーガルリサーチなど弁護士業務の様々な場面でAIツールの活用が進んでいる。こうした技術的な進展を踏まえつつ、実務家が直面する法的な論点や、テクノロジーの進化の中で弁護士が果たすべき役割を改めて考える機会となった。

2　パネルディスカッション「弁護士業務におけるテクノロジー活用の実例」

パネルディスカッションのテーマは「弁護士業務におけるテクノロジー活用の実例」。実務でAI・リーガルテックを積極的に活用している弁護士がパネリストとして登壇し、具体的な事例や知見を共有した。

パネリストとして登壇したのは、法律事務所LEACTの酒井貴徳弁護士（第二東京弁護士会）、法律事務所ZeLoの南知果弁護士（第二東京弁護士会）、西村あさひ法律事務所の水井大弁護士（第一東京弁護士会）の3名。それぞれ異なる事務所・立場からリーガルテックの活用実態を語り、実務でのテクノロジー導入の具体的なプロセスや、そこから見えてきた課題、今後の展望などについて議論を交わした。モデレーターは当会業務改革委員会副委員長の二木康晴会員が務めた。

異なる規模の事務所に所属し、異なったバックグラウンドを持つ弁護士がそれぞれの現場での取り組みを紹介したことで、参加者にとってはリーガルテック活用の多様な実像を知り、自身の弁護士業務へのリーガルテック活用のヒントを得られる貴重な機会となった。

3　セミナーを振り返って

本セミナーは、リーガルテックの「現在地」を俯瞰する視点と、実務家による「具体的な活用事例」の両面から学べる内容となった。生成AIをはじめとするテクノロジーの進化は、契約書作成・レビューやリサーチ業務など、弁護士業務の様々な局面に影響を及ぼしつつある。

テクノロジーの進化のスピードが増す中、弁護士がその変化にどう向き合い、業務の質や働き方をどう変えていくかは、今後も重要なテーマであり続けるだろう。本セミナーは、その第一歩として、多くの会員にとって有意義な学びの場となった。

＊登壇者の所属等はセミナー開催時点におけるものとなります。